

タンゴとサッカーの国・ アルゼンチン



6月14日(金)に津田公民館で、国際理解出前講座を開催し、9名が参加しました。講師は、大谷アリシアさんです。アリシアさんは、首都ブエノスアイレス近郊のメルセデスという町で育ちました。

アルゼンチンという名前は、「銀」を表すラテン語の *argentum* から来ているそうです。アルゼンチンは世界で8番目に面積の大きい国で、人口は約4,000万人。親日家が多いそうです。ヨーロッパからの移民が多く、ブエノスアイレスは南米のパリといわれるほど、フランス風の建物がよく見られます。また、イタリア料理のお店も多いそうです。

公用語であるスペイン語のミニ講座では、日本で車やサッカーチームの名前にスペイン語が多く使われていることが紹介されました。また、「さらば草原よ」というタンゴの歌をみんなで聞きました。歌詞やメロディーが演歌に似ていて、日本人にとっても親しみやすい音楽です。

他にも日本の学校との違いや食べ物、観光名所の紹介など、さまざまな内容を紹介していただきました。講義の後には、参加者がマテ茶の茶道具やアルマジロの甲羅で作られた弦楽器チャランゴなどを実際に手に取ってみたいり、講師にいろんな質問をしたりしていました。

この講座を通して、アルゼンチンのことを少しでも身近に感じていただければ幸いです。

